

### \*\*\* MPLAB ver.8.xx での MEL 社 PICBasic Pro コンパイラ使用方法 \*\*\*

**下準備** (MPLABver.8.xx インストール時 1 回のみ) :

MPLAB ver.8.xx を先にデフォルトのディレクトリにインストールしておいて下さい。その後 MEL 社 PICBasic Pro コンパイラ CD-ROM を

C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\BP300 フォルダにインストールして下さい。**この後、注意することは** ユーザー様の basic ソースプログラム(例えば sleep.bas)と後述するプロジェクトファイル(例えば sleep.mcp)は必ず同一フォルダ C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\BP300 内(コンパイラプログラム本体 PBPW.EXE とアセンブラ PM.EXE と同一フォルダ内)に置いてください。ユーザー様の整理の都合等で \WORK、\Project フォルダを作成されてその中に置かないで下さい。

(プログラムファイル、中間ファイル等が乱雑に置かれますが必ずこの様にして下さい。)

MPLABv7.xx は MEL 社の PICBasic Pro コンパイラがデフォルトで Language にありませんので

<http://microengineeringlabs.com/support/mplab.htm> で MPLAB プラグインをダウンロード解凍して 3 つのファイルを C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE \BP300 フォルダにコピーして PBP\_reg.bat 名のバッチファイルをダブルクリックして下さい。

これで次回以降デフォルトで MPLAB 起動時に MEL 社の PICBasic Pro コンパイラが表示されます。

1、「File」,「New」で basic プログラムを書き拡張子\*\*\*.bas で\BP300 フォルダにセーブしておいてください。(例 SLEEP.bas) SLEEP.bas ソースウインドウは開いたままにしておいてください。

尚、BP300 フォルダは C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\BP300 等にして下さい。

2、コンパイラ PBPW.exe、PM.exe のあるフォルダ名が\BP300 とすると MPLAB IDE の「Project」,「Project Wizard...」でターゲット device を指定して Active Toolsuite で microEngineering PicBasic Pro Toolsuite を選択して Location に Browse...ボタンで PBPW.EXE のパスを指定してください。MPLAB IDE をデフォルトでインストールなら C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\BP300\BP300.PBPW.EXE となります。次に Project Name(任意、例 sleep.mcp)と Project Directory を Browse...ボタンでこの\BP300 フォルダを指定してください。(C:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\BP300 となります。)

次に Step Four: Add any existing files your project で 1、で作った

SLEEP.bas を Add してチェックしてください。次へをクリックして完了です。

>>> 2 枚目に続く

- 3、「Project」 「Open」 で 2、 で作った sleep.mcp プロジェクトを開いてください。  
already open の注意が表示されてもそのまま進んで下さい。
- 4、「Project」 「Build Option」 で Project クリック、 **PICBasic Pro** タブの **Use MPASM Assembler** から **Generate Listing** 迄の 5 つのチェックをすべて外してください。  
Inherit global settings をチェックを外し、 Use Alternate Settings もチェックを外してください。(アセンブラは自動的に PBPW.exe 付属の PM.exe になります。)  
(注釈：コンパイラ PBPW.exe でアセンブリ言語( \*.ASM)が生成され自動リンクでアセンブラ PM.exe が起動され、ライターで書き込める(\*\*.HEX)ファイルが生成されます。) 但し  
**PIC18Fxxx** のコンパイルの場合 コンパイラは PBPW.exe アセンブラは **MPASMWIN.exe** を使わなければならないので Use Alternate Settings をチェックして下欄に -a オプションとして  
MPLAB ver. 7.xx までは  
    -aC:\Program Files\microchip\MPLAB IDE\MPASM Suite\MPASMWIN.exe  
MPLAB ver. 8.xx からは  
    C:\Program Files\Microchip\MPASM Suite のファイル全てを選択して  
    C:\Program Files\Microchip\MPLAB IDE\PBP300 フォルダにコピーして下さい。( PBPW.exe 起動に続いて MPASMWIN.exe を自動起動させる為に PBP300 フォルダ内に PBPW.exe と MPASMWIN.exe がなければならない。)  
後は Use Alternate Settings をチェックして、下欄に a オプションとして  
    -aMPASMWIN.exe (MPLAB ver.7.xx のように path は不要。)  
と指定して下さい。OK クリックでコンパイル準備ができました。
- 5、「Project」 「Compile」 でコンパイルして PBPW.exe のアセンブラ PM.exe が自動的に起動して(PIC18Fxxx は上の 4、 の設定で MPASMWIN.exe が自動的に起動)Hex ファイルが生成されます。コンパイルが成功なら SUCCEEDED とでます。
- 6、次に知っておくと便利な機能を記します。  
MPLAB IDE 左上に必ず出る Work Space ウィンドウの何も無い白いところを右クリックして Preference クリック  
Display Project Nodes As....  
    黒丸 Full paths

>>> 3 枚目に続く

**Display File Nodes As....**

**黒丸 Full paths**

として置くと便利です。

また、MPLAB ver8.xx では Refresh on application focus チェックせず。

Auto-refresh interval [ (Disabled) ]にして置いてください。

本文書の著作権はテック・ハンゾウガネ諸橋義明にあります。

© 2003 テック・ハンゾウガネ諸橋義明, ©2003 Yoshiaki Morohashi Tech・Hanzougane

許可無く転載、コピー、再配布を禁じます。

作成 2003/07/24

改訂 2004/12/07

追加 2006/09/05

追加 2006/09/15

修正 2008/08/10 (メールアドレスと URL を GIF ファイル化)

追加 2011/12/07 ( MPLAB ver. 8.xx の場合を追加 )

テック・ハンゾウガネ

諸橋義明

[tekhanzo@mta.biglobe.ne.jp](mailto:tekhanzo@mta.biglobe.ne.jp)

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~tekhanzo/>